

〈近世〉

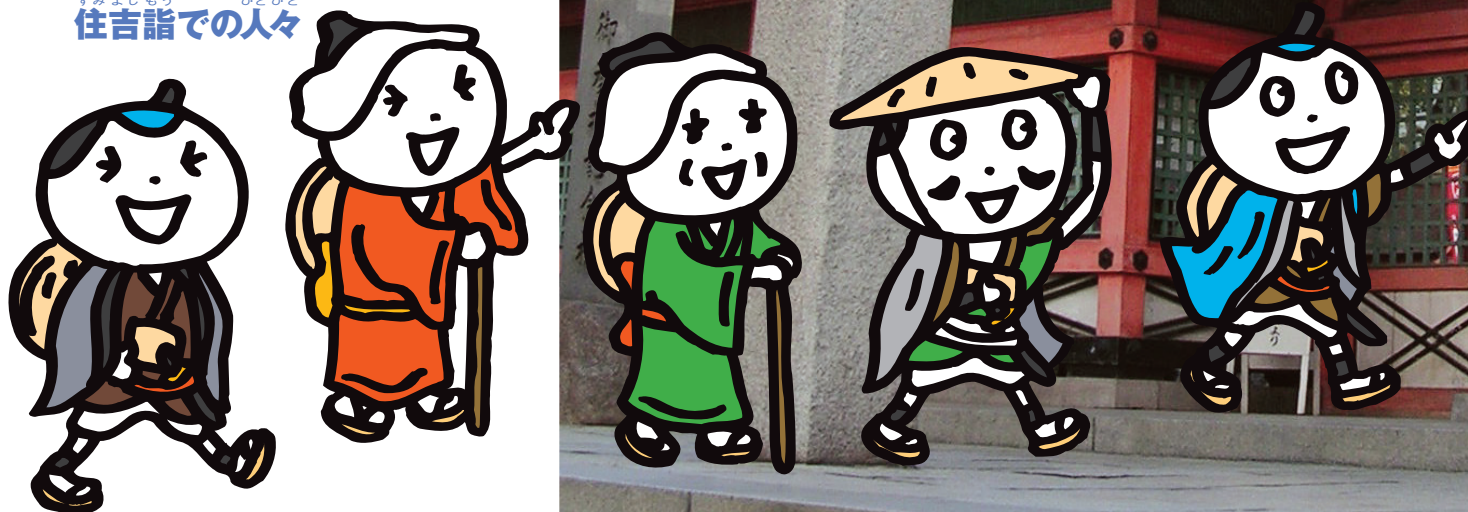
そして江戸時代、 住吉は栄える

太平の江戸時代になると、住吉大社を中心とした観光地として人々が住吉を訪れ、また、南北朝や戦国時代の戦争絵巻の舞台として語られることで、一層、旅人の足を留める場所になります。観光名所としての住吉大社周辺と熊野街道、紀州街道沿いには人々の往来が絶えませんでした。

江戸時代の観光ガイドである『摂津名所図会』には当時の住吉の観光地が描かれています。

角鳥居と呼ばれる四角柱の柱は、大変珍しい

住吉区ゆかりのキャラクター 11
住吉詣での人々





すみ そりばし
「住よし反橋」
は せがわさだのぶ が おおさかじょうてんしゆかく ぞう
(長谷川貞信 画 / 大阪 城 天守閣 蔵)



すみよしたいしゃ そりばし たいこばし はし いけ うみ
住吉大社の反橋 (太鼓橋)。橋のかかる池はかつては海につながっていた



ぶん か ねん つく ごほんてん だいいちほんぐう だいにほんぐう
文化7 (1810) 年に造られた御本殿。第一本宮から第四本宮まである

あしゅうあいだまおおさかつみ いしとうろう
阿州 藍玉大坂積の石燈籠



すみよしたいしゃけいだい
住吉大社境内に、
こうかい ぶし いの
航海の無事を祈っ
きたまえぶね せんしゆなど
て北前船の船主等
おおくの いしとうろう
が多くの石燈籠を
ほうのう
奉納した

だいかいじんじゃほうのうふな え ま
「大海神社奉納船絵馬」
が だいいめ はせがわさだのぶ
(画: 五代目長谷川貞信/
ほうのう かぶ
奉納: (株)コーニツシュ)

